

### 3. 歴史街道計画10年のあゆみと「京都～奈良間」の連携事業

歴史街道推進協議会事務局長 井戸 智樹

(「歴史街道10年のあゆみ」VTR 放映)

歴史街道推進協議会事務局長の井戸でございます。ビデオでもご覧いただきましたが、歴史街道推進協議会が出来ましてから、本年度で10年目ということでございまして、特に、関西の地元中心にこれまでいろいろ行事を行ってまいりまして、今日、東京で最終回ということでございます。ビデオにもございましたように、まだこの計画自体は、まだまだこれからという段階でございまして、いわゆる文化観光ルートとしての格好が出来てくるのは、まだ10年とか20年とか、お待ちいただかなければいけないとは思っております。ただまあ、それはそれと致しまして、現時点でもどんなふうな感じなのかということが、おそらく首都圏の皆さんのご関心事だというふうにも感じておりますので、今日は、私のほうから補足といたしまして、「各地がこんなふうになってきていますよ」というようなことを中心にご紹介したいと思います。

今日は京都、奈良、飛鳥の3地区を中心に、ご紹介をしてみたいと思っております。

まず、逆さ日本史でまいりますと、京都からということでございますが、歴史街道のメインルートのうち、京都市内には二条城、それから嵐山・嵯峨野、それから竜安寺、金閣寺などのありますきぬかけの道、それから平安神宮のあります岡崎、清水寺のあります東山、この5地区ぐらいが、入門コースとしてのポイントになっております。それから、歴史街道のスタンプポイントでございますが、京都市内で14ヶ所ほど指定をしております。

で、最近の京都の動きということで、後ほど、京都館の北村さんのほうから、詳しくご説明があるかと思いますが、私なりに、最近、京都が大きく変わってきたなというポイントをご紹介します。

まず、その1点目ですが、「京都の冬の旅」或いは「夏の旅」なんかを中心に、隠れた名所といますか、必ずしも有名でない寺社の特別開放などが非常に進んでまいりました。先週、歴史街道倶楽部で訪れました、三時知恩寺というお寺など、それぞれにいい文化財をお持ちで、且つ、きめ細やかなおもてなしということで、さすが京都だなあという感じがいたしました。まあ有名でない寺社の開放が進んで来ているということでございます。

2点目としましては、京都市内の方ばかりじゃなくて外部から来られた方も含めまして、町屋の活用が最近になってものすごく進んでまいりました。特に、京都市の中京周辺でございますが、中京区だけで200件ぐらい、町屋を活用した店舗があるということでございます。で、私どもの協議会のほうでも、京都のこういう動き受けまして、京都だけじゃなくて、奈良市の奈良町、或いは、飛鳥周辺では、橿原の今井町、それから伊勢神宮の御祓町、神戸の北野異人館、なんかとも併せて、こういう町屋店舗のネットワークを、出来るだけ早く作っていきなというような研究を始めたところでございます。

3点目に大きく変わりましたポイントとしては、京都市、観光協会などだけではなくて、商工

会議所、或いは大学、宗教界等々、観光協会以外の方々の団体の活動が非常に盛んになってきているということです。今日は、学術文化の面から、その分野を引っ張ってらっしゃる廣川先生に後ほど、ご発表をいただきたいと思っております。

それから、歴史街道モデル事業でございますが、この整備につきましては、現在のところ、東山地区のねねの道、或いは二年坂、三年坂、鴨川周辺、或いは、五条通等々で実施をしております。また、これをもっと拡大した動きといたしましては、京都市のほうで先ごろ、京都市歴史街道マスタープラン策定調査というのが行われました。これは何かと言いますと、京都市内に関係する24の歴史的な街道そのもの、街道と、周辺の1, 200ぐらいの場所をまず調べまして、もっとまちづくりに活かしていこうというような構想でございます。いろいろな観光事業が進む一方で、そういう整備・保存の面でも、「今後、京都がどんどん良くなっていくな」ということを期待しているところでございます。

それから、次に、京都から南のほうにまいります。京都～奈良～飛鳥となっているわけですが、京都から、奈良、飛鳥までは近鉄電車、JRが走っております。大阪からもJR、近鉄が走っております。あと、高速道路ですが、高速道路は現在、京都～奈良～和歌山を結ぶ京奈和自動車道が一部区間だけ完成をしております。それから、名神高速道路から来る場合は、瀬田東インターから宇治のほうに行く。で、大阪からは、奈良市内とそれから法隆寺のほうに行っているところでございます。この部分がもう少し完成していきますと、非常に便利になっていくわけですが、まあ小泉改革もございますので、どの時期にどうなるかということは、まだちょっと解らないという感じでございます。

まあそんなことで、京都から南に行きまして、宇治でございますけども、源氏物語の宇治十帖の舞台ということで、こちらの町では歴史街道モデル事業がほぼ完成をしております。宇治川を中心にしまして、宇治橋の復元、それから駅前の整備、遊歩道の整備、それからフォトポイント、或いは源氏物語ミュージアムの整備等々でございます。この10年で見違えるような綺麗な町になったというふうに思います。最近お越しになってない方は是非、訪れていただきたいと思えます。それで、京都市内、或いは高速のインターから宇治の中心のほうに入っていく道路等の様子でございますが、まあそれなりに、少しずつ良くなってきているということでございます。歴史街道全部が非常に綺麗な景観になるには、相当時間かかりますけども、まあ確実に良くなる方向にはなっているということでございます。

じゃあ、宇治から南にいまして、木津町というところ、ここでも、歴史街道のモデル整備が進められております。協議会としては、山の辺の道と、宇治から南にいます山城古道、それから奈良市内の歴史の道等々を合わせまして、共同的な事業を立ち上げていこうということで、現時点でも、曲りなりに宇治から飛鳥まで歩いていけるような案内標示等しております。

次に奈良にまいります。奈良公園、西ノ京、それから平城宮跡が奈良時代を代表する場所ということでございます。市内には今日お越しの東大寺さん含め、7ヶ所ほどのスタンプポイントがございます。寺社それぞれに、特に東大寺さんの「大仏開眼1250年」初め、いろいろな事業を最近されているということでございます。また、寺社以外でも、いろいろな歴史文化の保存や活

用が盛んになってきておりました、奈良町、それから保存が決まりましたJRの奈良駅、平城宮跡ですね。それから復元された朱雀門というようなことでございます。奈良ではいろんな問題を観光上抱えていたわけですが、第1には、これ東大寺さんに怒られるかも解らないんですが、大仏さんを見たら全部終わったというみたいな観光的なイメージがあるということで、最近、世界遺産の指定を契機にいたしまして、世界遺産をまあ1日、半日でぐるっと廻れる、市内めぐりの「世界遺産ぐるっとバス」というのが、運行が始まっております。それから、最近の変化としては、夜の魅力づくりに非常に力を入れているということでございます。夏の新しいイベントの「灯花会」、それから、寺社関係のライトアップ、お盆の時期の大きな3つの行事、「東大寺の万灯供養会」「春日大社の万灯籠」「高円山の犬文字おくり火」等を時期をそろえてPRする等々の試みが始まっております。

次に、奈良から南の、歴史街道でいうところの「古代史ゾーン」でございますが、法隆寺がある斑鳩、それから飛鳥、山の辺の道が大きな場所というふうになっております。スタンプにつきましては、石上神社、或いは、橿原考古学研究所等を含めました5ヶ所がポイントになっております。モデル整備は現在のところ、明日香村と、それから、法隆寺周辺で、展開をしております。また、モデル事業ではございませんが、JR桜井駅から山の辺の道への誘導等も非常に解りやすくなってまいりました。法隆寺には歴史街道iセンターもございます。

歴史街道iセンターにつきましては、この区間におきまして、一応9ヶ所ほどが指定されております。ある場所に行っても、他の情報が見れるというような仕組みでございまして、外国人向けのサービス等もおこなっております。

それから、飛鳥とか山の辺の道を中心にしまして、歩くイベントを出来るだけ連携させていこうというような事業もやっております。また、新しいイベントとしましては、大和三山のうちの、天香久山をライトアップしてコンサートするような、そういう事業も開始されております。又、春と秋の観光シーズンに、京都と飛鳥の間で、ボランティアガイドの案内等も行っております。山の辺の道の桜原神社、黒塚古墳でのボランティアガイドです。

最後に外国人受け入れの関係でございまして、博物館での多言語案内等を含めまして、ボランティアガイドの案内等も行っております。先日の「世界観光機関大阪総会」の時にもご案内しましたが、特に飛鳥周辺は、大陸との関係が深いところでございますので、英語だけじゃなくて、韓国語、中国語等でも案内を出来るようにということで取り組んでいるところでございます。

最後に飛鳥周辺でございまして、近鉄の飛鳥駅、JR・近鉄の桜井駅の間にあるのが藤原京跡です。明日香村周辺でいいますと、大和三山が見渡せます甘樫丘というのがございます。また、蘇我馬子の墓ではないかと言われている石舞台古墳、高松塚古墳。最近の新しい施設としまして、1つは犬飼先生の犬飼万葉記念館。それから、今日お越しいただいている上野先生がいらっしゃる万葉文化館が昨年9月にオープンをしております。

まあ、というようなことで、私のガイダンスはこのくらいで終わりにいたしまして、これから、京都～奈良～飛鳥、それぞれゆかりの皆さん方に15分ずつ、各地の状況をご報告していただこうと思っております。どうもありがとうございました。

## 4. プレゼンテーション「京都～奈良の最近の動き」

①京都館所長 北村 康二氏 「京都市観光の取り組み」

赤坂にあります京都館の所長の北村でございます。2年前に、青山にありました物産館と、東京駅にありました観光コーナーが合体しまして、赤坂アークヒルズの中に京都館として入りました。

本日は、観光のを中心にとということで、日頃、京都館に、いろいろ訪れる方々の質問などを中心にして、こういった形でPRしていったらよいか、次の4点でお話をさせていただきます。

1番目が観光資源を見つけるポイント。2番目がその観光資源をどのようにして掘り下げていくか。3番目が2002年の新事業について。そして、4番目が京都館ということです。

観光資源を見つけるポイントですが、お問い合わせの方々の意見を聞いてますと、一番多いのは、やっぱり人間の本能的な部分ですね。人間的なところが一番多い。いわゆる「衣・食・住」とかです。五感。そして、心と身体ということに次ぐ、問い合わせが一番多いですね。

もうひとつは、持っているものをより良く見せる。そういったところの工夫の問題です。京都も、10年ぐらい前、ショッピングモールとかいろいろ造りましたが、結局、今、こういった形でお問い合わせが収斂されてるかと言いますと、やはり、こういった持つるものをより良く見せるということに戻ってきています。

そこで、本能的なところということで、まあ「衣・食・住」の、「住」のところですね。町屋を始めて20年になりました。で、10年ぐらい前から、非常に力を入れてきています。しかし、最初は全然駄目でした。やっぱり清水寺とか、金閣寺とか、銀閣寺とか、こういった観光の中心施設と比べると、非常に見劣りがしました。私自身も、「こらもうアカン」と思いました。やっぱり貧弱に見えるんですね。しかし、その筋の人に言わせると、「絶対ええと思う」「これは絶対ええ」とおっしゃる。光をとる天窓があって、坪庭があって、小さい庭を造ってですね、あかりをとるんです。風通しもいいし、襖をはずしたら大広間になるということで、生活の知恵というのが結集されてるということで、確かに10年間ずっと続けてきましたファンが固定化してきました。

昨年夏ピックアップした、川崎家、八木家、堀野家の3つの町屋ですが、川崎家は、室町一の豪商のところで美術館となっております。建物も屏風などの調度品も一番ですね。八木家というのは幕末の新撰組、近藤勇とか土方歳三などの宿舎となったところです。建物には、刀傷がまだ未だに残っています。堀野家は、中京の造り酒屋、名水が出るところで、今はお酒の博物館となっております。

この10年、初めは町屋、町屋ということから始まったのですけど、それにプラスαして、今では、本当に町を支える魅力のスポットとなってきました。

次は酒蔵です。伏見のほうへ行くと、やっぱり酒蔵というのがあります。これから、なんとか注目して育てていこうと、今、頑張っています。コンサートをやったり、落語をやったり、お月見をやったりとか、今、試行錯誤して育ててるところです。

住むという切り口でピックアップ出来るのは、もう1つ、和風の旅館、料亭です。

最近、ホテルがやっぱり非常に便利で多いのですが、かゆいところに手が届くような非日常体験ということで、旅館があります。

「食」については、やはり本能的で、一番に問い合わせも多いところです。京料理というのは、大きく4つの流れがあります。1つは、いわゆる五種の料理である有職料理。でもう1つはお寺が多いですから精進料理。お茶とともに育ってきた懐石料理。そして庶民の料理であったおぼんざいですね。そして、うちは懐石料理の店だとか、うちは精進料理の店だとかいうものもありますけども、殆ど多くの料亭は、この4つをうまく組み合わせて、店のオリジナルとして出しています。

一度こられて、次に来た時また同じ料理が出るというわけにはいきませんから、こう次々と工夫がなされています。

お茶・お菓子・漬物、これもそれぞれ京都の食の武器となっています。「衣・食・住」の「衣」ですけれども、京都ということになると、やはり着物になります。